

2020年12月25日
日本船主協会 海事人材部

荒川区立第三中学校「校内ハローワーク」への協力

日本船主協会は、2008年7月に人材確保タスクフォースを結成し、優秀な日本人船員確保のための広報活動を展開しております。

この度、その一環として2020年12月12日(土)に開催された、荒川区立第三中学校(東京都)の校内ハローワークに協力しました。

荒川区立第三中学校の校内ハローワークは、約30業種の社会人が講師となり、在学生徒にその職業について紹介するという取り組みです。生徒が様々な職業の魅力や苦勞、やりがいを直接聞くことで、それらの職業に対する知識を深め、卒業後の進路や生き方について考えることを狙いとしています。当校内ハローワークは、今年で15回目を迎えました。当協会には2011年度より招請があり、今回で10回目の講師派遣となりました。

今年度は12月12日(土)に開催され、株式会社商船三井より福島淳船長と服部拓弥一等機関士、竹下博章一等機関士の3名が講話をしました。海技者の他、グラフィックデザイナー、落語家、建築士、消防士、提灯職人など多種多様な27職種の講師が招かれ、1～3年生の全校生徒がそれぞれの講座に参加しました。

3回実施された講座には、計45名の生徒が参加しました。そして、海運が社会に果たしている役割や重要性、船の大きさ、船乗りの仕事内容、船乗りへの進路などについて、船内外の写真や動画を交えた説明を熱心に聞いていました。また、そのスケールの大きさに非常に驚いている様子でした。

さらに、「一番のやりがいは何か」、「何か月もの航海の間、食料はどうしているのか」、「途中で嵐にあったらどうするのか」、「船乗りになるために必要な資格や、中学生活で勉強すべきこと」など、各講座とも時間終了間際まで質問がありました。

当協会の人材確保タスクフォースでは、今後もこうした若年層へのキャリア教育の場に積極的に参加し、海技者の魅力を伝え、職業の認知度向上に努めていきます。



講師の服部一等機関士（左）、福島船長（中央）、竹下一等機関士（右）



黒板を使って説明を行う福島船長（右）



船内の映像を見せながら生徒へ解説する服部一等機関士（左）



竹下一等機関士の質問に挙手で答える生徒たち